

# 公益財団法人交通遺児育英会 平成29年度事業報告

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

第4次長期事業計画の第2年度である本年度は、同計画の課題に重点を置きつつ、各事業を円滑に遂行した。

奨学生の採用については、例年どおり全国の学校、教育委員会等に向け積極的な奨学生募集広報活動を行ったが、高等学校等就学支援金制度の定着などの影響もあり、前年度から大きく減少した。

一方、奨学貸与金の回収に関しては、今年度は回収額、回収率ともに前年度を上回る結果となった。滞納状況については、1年超、5年超のいずれも前年度末に比べ滞納者数、滞納額ともに減少した。

また、今年度より、特別支援学校卒業生や生活保護受給者に対するの返還免除を実施している。

平成27年度下期から修学支援金給付事業の一環として開始した「家賃補助」については、今年度の上期、下期を通して給付者、給付金額ともに前年度下期から減少した。今年度より「上級学校進学受験費用補助」を開始したほか、12月には、平成30年度から給付を実施する予定の「普通自動車運転免許取得費用補助」の申込み案内を行った。

「知名度向上」では、7月から、AC支援広告第3弾を、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌の主要4メディアのほか、生活情報紙、電車中吊り広告、駅貼りポスターで展開中である。9月には、引き続き平成30年度のAC支援団体に選定され、今後一層の知名度向上が期待される。

管理面では、平成31年2月の稼働を目指し、奨学金申込みから返還終了までの一元管理のための新システム構築に向けて準備を進めている。

以下に事業別の詳細を記載する。第4次長期事業計画の重点課題については、本文中、項目番号の前に\*印を付してある。

## I. 奨学生の採用および奨学金の貸与等

当会奨学事業を取り巻く環境は大きく変化している。まず、大きい要因として、交通事故死者数の減少による交通遺児家庭の減少と少子化がある。また、高校については、平成22年度より高校無償化法（公立高等学校授業料不徴収および私立高等学校等就学支援金支給）が実施され、さらに平成26年度には法改正で低所得者への支援金支給が拡充されたことが挙げられる。

一方、各都道府県においては独自の奨学金制度があり、これらの奨学金制度の多くは他奨学金との併受給を禁止している。

こうした影響を受け、平成25年度以降をみると、高校奨学生と大学奨学生の採用数減少が顕著である。加えて、大学院奨学生、専修学校等奨学生も減少傾向にある。採用者総数は、平成25年度1,452人に対し、平成29年度は1,161人と291人減少している。

奨学生採用数の減少により、平成25年度以降では、奨学金貸与総額も減少しており、平成25年度の966百万円に対し、平成29年度は757百万円と209百万円減少している。

### <最近5年間の奨学生採用数・貸与金額の推移>（人、百万円）

年 度	高 校	大 学	大学院	専 修	各 種	合 計	貸与総額
H 2 5	485	739	32	189	7	1,452	966
H 2 6	479	719	38	184	4	1,424	949
H 2 7	442	662	36	177	4	1,321	873
H 2 8	388	616	30	189	4	1,227	823
H 2 9	338	625	18	174	6	1,161	757

（注）「高校」は「高専」を、「大学」は「短大」を含む。以下同じ。

#### 1. 平成29年度奨学生の採用および奨学金の貸与

平成29年度の奨学生の新規採用として、平成28年度に予約決定した新1年生の本採用、および平成29年度に1年生以上に在学している者の在学採用を実施した。

新規採用数は、大学が31人、各種学校が1人増加したが、高校奨学生が9人、大学院奨学生が8人、専修学校奨学生が18人減少し、全体で

は前年度に比べ3人減の合計383人となった。なお、計画比では24人減となった。

一方、2年生以上の継続採用者は、専修学校奨学生が3人、各種学校奨学生が1人増加したものの、高校奨学生が41人、大学奨学生が22人、大学院奨学生が4名減少し、全体では、前年度に比べ63人減の合計778人となった。なお、計画比では2人減となった。

これらにより平成29年度採用者合計は前年度より66人減、計画比でも26人減の1,161人となった。

平成29年度の奨学金の貸与総額は6億23百万円となり、前年度に比べて51百万円の減少となった。また、入学一時金の貸与者は、前年度に比べ1人増の合計162人、貸与額は前年度より4百万円増加し、1億円となった。高校奨学生3年生への進学準備金の貸与は、前年度に比べ24人減の44人、貸与額は前年度より19百万円減少し、34百万円となった。

この結果、平成29年度の奨学金・一時金の貸与総額は7億57百万円となり、前年度に比べ66百万円の減、予算比では50百万円の減となった。

＜平成29年度奨学生採用者数および奨学金貸与額＞

		新規採用者(人)			継続採用者(人)			採用者合計(人)			奨学金貸与額(千円)
		実績	増減数		実績	増減数		実績	増減数		
			計画比	前年度比		計画比	前年度比		計画比	前年度比	
奨学金	高校	125	-13	-9	213	-6	-41	338	-19	-50	128,720
	大学	182	12	31	443	7	-22	625	19	9	370,750
	大学院	6	-4	-8	12	-1	-4	18	-5	-12	16,020
	専修	67	-20	-18	107	-2	3	174	-22	-15	103,730
	各種	3	1	1	3	0	1	6	1	2	4,080
	合計(H28年度)	383 (386)	-24	-3	778 (841)	-2	-63	1,161 (1,227)	-26	-66	623,300 (674,380)
一時金	高校	72	-9	-5	—	—	—	72	-9	-5	35,800
	大学	56	0	5	—	—	—	56	0	5	40,800
	専修	34	1	1	—	—	—	34	1	1	23,200
	各種	0	-2	0	—	—	—	0	-2	0	0
	合計(H28年度)	162 (161)	-10	1	—	—	—	162 (161)	-10	1	99,800 (96,000)
準備金(H28年度)		—			44 (68)	-26	-24	44 (68)	-26	-24	34,000 (52,800)
平成29年度奨学金および入学一時金・進学準備金貸与額(H28年度)											757,100 (823,180)

2. 奨学生の退学、辞退等の状況

平成29年度における退学、辞退者等は前年度(52人)より15人多く、合計67人であった。これにより平成29年度末奨学生総数は1,094人となった。

＜平成29年度奨学生採用数の内訳および年度末奨学生数＞ (人)

学 校	新 規 採 用 者			継 続 採用者	採用者合計	退学・辞退者等	年度末奨学生数
	予約採用	在学採用	合計				
高校	81	44	125	213	338	17	321
大学	149	33	182	443	625	35	590
大学院	3	3	6	12	18	2	16
専修/専門	54	11	65	103	168	12	156
専修/高等	2	0	2	4	6	1	5
各種	3	0	3	3	6	0	6
合計	292	91	383	778	1,161	67	1,094

また、平成29年度末の奨学金の休止および一時停止者は下表のとおりであり、高校奨学生1人、大学奨学生28人、専修学校奨学生3人の合計32人である。前年度末より1人増加した。

＜休止、一時停止の状況＞

(人)

	高 校	大 学	大学院	専修・各種	合 計
平成28年度末	0	28	0	3	31
平成29年度末	1	28	0	3	32
増 減	1	0	0	0	1

3. 平成30年度奨学生の予約採用

平成30年度に進学する者のための予約採用を例年どおり実施した。同時に東京学生寮、関西学生寮の入寮予約採用も実施した。予約決定者数の合計は平成29年度（322人。内訳は、高校85人、大学175人、大学院3人、専修・各種59人）より72人少なく250人であった。特に大学予約決定者の減少が45人と大きかった。

＜平成30年度奨学生・入寮生の予約決定者数＞

(人)

	高 校	大 学	大学院	専修・各種	合 計
予約決定者数	69	130	8	43	250
東京寮予約決定者数	—	26	2	1	29
関西寮予約決定者数	—	15	1	6	22

4. 修学支援金の給付

平成27年度下期に修学支援金制度を創設し、「家賃補助」を開始した。給付額は月々1万5千円で、上期と下期に半年分を一括給付するもので、平成29年度は上期183人、下期187人に給付した。

＜家賃補助金給付者数＞

(人)

	大 学	大学院	専修・各種	合 計	給付額(千円)
平成27年度下期	168	15	31	214	19,260
平成28年度上期	160	18	30	208	18,720
同 下期	161	19	29	209	18,810
平成29年度上期	146	13	24	183	16,470
同 下期	151	12	24	187	16,830

## 5. 奨学生の募集広報活動

募集案内を、全国の中学校および高等学校には、年度初めと2学期の終わり頃の年2回、大学・大学院および専修・各種学校には年度初めに送付した。また、都道府県や市町村の教育委員会、警察等の関係部署、全国の自動車教習所等にも例年どおり募集協力依頼を年度初めに送付し、送付先の総数は約3万件となった。

当会ホームページには、奨学生募集案内を各学校別、予約・在学別に詳細にわたって掲載し、奨学生募集要項と願書については、ホームページから直接ダウンロードできるようにしている。さらに、ホームページからの応募関係書類送付申込みや質問の受け付けを実施した。

## II. 奨学金の返還

奨学金返還においては、今年度も返還者の減少は続いているものの、返還額、返還率とも前年度を上回る実績であった。特に長期滞納については、各種滞納者対策を懇切丁寧に実施したことにより、大幅な減少に繋がった。

### 1. 返還金回収事務の推進状況

#### (1) 返還金の回収状況

平成29年度の返還対象者数は13,994人、奨学金と入学一時金を合わせた回収額は10億26百万円、調定額（平成29年度中に返還期限が到来した要返還額：11億63百万円）に対する回収率は88.2%であった（前年度は87.1%）。返還対象者数の減少は続いているものの、前年を上回る返還実績となった。

このうち、口座振替による回収については、口座振替利用者数9,177人（利用率65.6%）、回収額8億5百万円（利用率78.5%）であった。

また、当年度中の返還完了者は738人であった。

＜平成29年度返還金回収状況＞

	奨学金	一時金	合計
返還者数 (口振返還者数、率)	13,994人	7,244人	13,994人 (9,177人, 65.6%)
回収額(①)(千円) (口振回収額、率)	889,999	136,336	1,026,335 (805,231、78.5%)
調定額(②)(千円)	1,004,225	159,102	1,163,327
回収率(①/②)	89.4%	85.7%	88.2%
返還完了者数	738人	220人	738人

(参考)                      ＜最近5年間の返還金回収状況＞                      (回収額:百万円)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
返還者数	15,410人	14,969人	14,623人	14,280人	13,994人
回収額	1,060	1,011	1,008	1,009	1,026
回収率	89.0%	87.1%	86.9%	87.1%	88.2%
返還完了者数	935人	825人	800人	755人	738人

(2)返還猶予とその理由

平成29年度中に返還猶予を承認決定した者は1,708人で、そのうち経済的理由によるものが1,534人(89.8%)であり、経済的理由による返還猶予の申し出は、引き続き高い水準で推移している。

なお、平成30年3月31日現在、返還猶予中の者は1,318人である。

(参考)                      ＜最近5年間の返還猶予決定者数＞                      (人)

		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
猶予決定者数		2,109	1,763	1,693	1,659	1,708
内訳	在学中・浪人中	212 (10.1%)	204 (11.6%)	200 (11.8%)	197 (11.9%)	174 (10.2%)
	経済的理由	1,897 (89.9%)	1,559 (88.4%)	1,493 (88.2%)	1,462 (88.1%)	1,534 (89.8%)

(3)返還滞納者の状況

平成30年3月31日現在、滞納期間1年超は2,598人、9億64百万円(うち5年超1,132人、6億75百万円)と減少し、なかでも5年超の長期滞納については、前年度に比べ、滞納者が170人、滞納額が88百万円減少した。

＜平成29年度末滞納期間別滞納状況＞

滞 納 期 間	平成28年度末		平成29年度末	
	人数(人)	金額(千円)	人数(人)	金額(千円)
5 年 超	1,302	763,164	1,132	674,840
4 年 超 5 年 以下	122	36,573	175	59,804
3 年 超 4 年 以下	286	74,972	335	83,188
2 年 超 3 年 以下	446	82,704	452	86,334
1 年 超 2 年 以下	639	76,531	504	59,716
小 計	2,795	1,033,944	2,598	963,882
6 ヶ 月 超 1 年 以下	321	20,194	347	22,805
合 計	3,116	1,054,138	2,945	986,687

(参考) 　　　　　　　　＜最近5年間の滞納状況＞

	1 年 超 滞 納		う ち 長 期 滞 納 ( 5 年 超 )	
	人数(人)	金額(千円)	人数(人)	金額(千円)
平成25年度末	2,850	1,091,009	1,612 (56.6%)	855,122 (78.4%)
平成26年度末	2,721	1,045,533	1,486 (54.6%)	829,524 (79.3%)
平成27年度末	2,797	1,034,280	1,382 (49.4%)	796,660 (77.0%)
平成28年度末	2,795	1,033,944	1,302 (46.6%)	763,164 (73.8%)
平成29年度末	2,598	963,882	1,132 (43.6%)	674,840 (70.0%)

(注) ( ) 内は1年超滞納に占める比率

(4) 返還免除の状況

平成29年度中の返還免除は、件数で57件、金額で41百万円となり、免除件数および金額ともに大幅に平年を上回った。要因は、当年度から免除対象とした生活保護と特別支援学校による免除に加え、自己破産による免除の増加が大きく影響している。



＜平成29年度返還免除件数・金額＞

(千円)

	高 校		大 学		大学院		専 修		計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
死亡	13	8,735	1	2,880	0	0	0	0	14	11,615
心身障害	8	5,681	3	3,430	1	1,800	0	0	12	10,910
自己破産	12	8,348	1	1,224	0	0	1	1,361	14	10,933
生活保護	11	520	0	0	0	0	1	20	12	540
特別支援学校	4	7,020	0	0	0	0	0	0	4	7,020
その他	1	65	0	0	0	0	0	0	1	65
計	49	30,369	5	7,534	1	1,800	2	1,381	57	41,083

(参考)

＜最近5年間の理由別返還免除状況＞

(千円)

	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
死 亡	14	9,031	10	8,555	8	3,752	15	8,000	14	11,615
心身障害	10	11,008	13	11,289	8	9,878	20	27,918	12	10,910
自己破産	4	2,600	7	2,065	11	7,806	4	1,822	14	10,933
生活保護	0	0	0	0	0	0	0	0	12	540
特別支援学校	0	0	0	0	0	0	0	0	4	7,020
その他	0	0	0	0	1	433	0	0	1	65
計	28	22,639	30	21,909	28	21,869	39	37,740	57	41,083

(5)滞納者全員への督促状の送付

平成29年3月末および9月末での1ヶ月超滞納者に対して、5月および10月に滞納通知を計8,748通発送した。これに対する回答数は742件で、うち返還猶予を希望した者は400件であった。

(6)住所調査の推進

宛先不明返還者に対する住所調査を推進し、648件の住民票・戸籍附票等の交付請求を行った結果、359件の異動先住所が判明した。新住所の判明により通知書等がより確実に返還者に届くことにな

り、滞納防止にもつながっている（平成28年度交付請求件数865件、同判明件数408件）。

## 2. 重点課題の推進状況

第4次長期事業計画の重点課題である滞納者対策を次のように実施した。

### \* (1) 長期滞納者対策の推進

#### ① 戸別訪問の実施

3年超滞納者を対象とした平成29年度の訪問地域は14道府県、総訪問戸数412戸、対象件数560件（うち5年超滞納420件）であったが、返還者等と面談出来たものは172件（同106件）、滞納解消件数138件（同84件）、同解消率24.6%（同20.0%）であった（平成28年度総訪問戸数442戸、対象件数561件（うち5年超滞納439件）、面談件数164件（同115件）、滞納解消件数121件（同85件）、同解消率21.6%（同19.4%））。

#### ② 長期滞納者宛督促状の送付

平成29年7月末現在で長期滞納となっている返還者（1,238件）に対し、8月に通常の滞納通知より厳しい文言での督促状を送付した。内容は今後の返還計画を回答するよう迫ったものである。これに対し、平成29年度中に回答があり長期滞納状態が解消したものは29件であった。

#### ③ 調停申立て

平成29年度において、滞納者宅訪問時の住居状況等から奨学金の返還が可能と思われる長期滞納者76名（89件）に対して、返還再開の話し合いをすべく、調停の申立てを行った（2名2件1百万円は調停期日前に解決）。

その結果、入金または返還約束が出来たものが61名（70件）で47百万円の長期滞納の解消に繋がった（平成28年度申立件数35名41件、同返還約束件数28名32件、同滞納解消額24百万円）。

上記の活動や、通常の滞納通知の送付等（長期滞納解消件数69件）

により平成29年度中に長期滞納状態が解消した案件は252件で、平成28年度末長期滞納件数（1,302件）の19.4%となった（平成28年度長期滞納解消件数205件、対平成27年度末長期滞納件数比14.8%）。

\* (2) 6ヶ月超5年以下滞納者への電話督促

平成29年度に実施した架電件数は1,401件であり、その結果、文書での督促による効果等も含め滞納解消に結びついた件数は762件あり、早期対応による滞納額の減少に繋がっている（平成28年度架電件数2,579件、滞納解消件数683件）。

\* 3. 奨学金申込みから返還終了までの一元管理システム構築の推進

奨学金申込みから返還終了までの一元管理を目指した新システム構築のために、返還課と奨学課が中心となり、ベンダーとの綿密な設計レビューを重ね、平成31年2月の新システムの安定稼働に向け万全を期している。

### Ⅲ. 奨学生に対する指導

#### 1. 学業成績および生活状況に関する指導

- (1) 学校から提出を受けた奨学生全員の「平成28年度学業成績表」にもとづき、進級や取得単位数（入学後の総取得数と平成28年度の取得数）の状況により、奨学金の停止、辞退勧告、復活の判定を行った。平成29年度以降努力を要すると考えられる大学生と保護者に対しては注意喚起を行った（内訳詳細は4～5ページ参照）。
- (2) 奨学生本人に「平成28年度生活状況報告書」を提出させた。学業への取り組み状況、将来の進路などを見るとともに、育英会に対する質問、要望などに対応した。

#### 2. 高校奨学生と保護者のつどい

8月19日（土）～20日（日）の2日間、「平成29年度高校奨学生と保護者のつどい」を東京都内で開催した。前年度同様、奨学生、保護者の毎年の参加を認め、小学生以下に加え、中学生の同伴者の交通費、

宿泊費も当会で負担した。

参加者は高校奨学生67名、保護者76名、同伴家族10名、計77家族153名であった。

初日は、保護者である母親と東京寮塾生、計2名の講演を行った。その後、奨学生は同伴した小・中学生を含み全員でグループワークゲームを行った。保護者は11グループに分かれての懇談会で、子育てや進路など直面する問題についてお互いに語り合った。

また、前年度同様、「個別相談会」を「つどい」の中で実施した。相談希望者9家族の進学、子育て、進学準備金や入学一時金、卒業後の奨学金返還、修学支援金（家賃補助）等についての相談や質問に応じた。

翌日は、希望者に対し、心塾東京寮の見学会を実施したが、これには16家族33名が参加した。

なお、「つどい」終了後に行った参加者アンケート調査では、高校生、保護者とも、「参加してよかった」という意見が非常に多く、グループワークゲームについても、「同じ境遇の人と親しく接することができて良かった」、「はじめて会った人と自然に話すきっかけとなった」などの意見が多かった。

### 3. 海外語学研修

高校奨学生を対象に英会話能力の向上等を目的に開始して14年目となる平成29年度は、アメリカ（7月21日～8月11日の22日間）に24名を派遣した。

研修生については、前年度同様、原則、英検3級相当以上を取得済であることを応募条件とし、作文による書類審査、個別面接審査を経て対象者を決定した。高校1年生（募集時中学3年生）の募集も引き続き行った。

研修終了後、参加者のほとんど全員から、英語の授業や現地の若者との交流、ホームステイでのホストファミリーとのやりとりなどを通じ、英会話の必要性を強く感じるとともに、異文化に触れ、一生の宝

物となる貴重な経験をしたという感謝の声が寄せられた。

11月に研修生全員の研修レポート集を作成した。

#### \* 4. 修学支援金

##### (1) 上級学校進学受験費用補助金

平成29年度より、第4次長期事業計画の給付事業として上級学校進学受験費用の補助を開始した。平成29年度の給付申請の締め切りは平成30年2月末とし、52名の高校奨学生に対し、平成30年3月に総額1,981千円を給付した。

##### (2) 各種資格取得費用補助金

平成29年9月に開かれた平成29年度第2回臨時理事会において修学支援金給付規程の改定（各種資格取得費用補助金としての「普通自動車第一種運転免許」取得費用補助金の追加。平成30年4月1日施行。平成29年4月1日以降の資格取得者から適用）が承認された。これに伴い、平成29年12月から給付申請を受け付けた（平成30年3月末現在の給付申請者数は113名）。

#### IV. 学生寮「心塾」の運営等

##### 1. 塾生への指導

##### (1) 東京寮・所沢寮

- ① 新入塾生17人を対象に、5月の連休明けから、学校や寮での生活について面談指導を行った。
- ② 上級生については、前年度の学業成績取得単位表をもとに単位の取得状況を確認した。
- ③ 塾生代表と月1回（8月を除く）の定例会を計11回行い、塾生との意思疎通を図った。
- ④ 所沢寮生については、5月に職員が寮を訪問し日常生活や進路について面談を行った。また、10月には、本部において面談を行った。

## (2) 関西寮

平成29年度現在入寮中の関西寮が22箇所あり、各寮を4地区に分け、訪問面談を下表のとおり実施した。

### ① 訪問面談実施状況

面談実施日	対象地区	対象寮	対象数
5月20～21日	神戸地区	今津、楠が丘、三宮、西宮	寮 : 4 学生 : 9
7月22～23日	京都地区 (桃山)	京都西陣、桃山御陵、三国ヶ丘、 茨木、茨木春日	寮 : 5 学生 : 11
8月 5～6日	大阪地区	阿倍野、東大阪、上本町、江坂豊津、 北梅田、西長堀、正雀、五月ヶ丘、 谷町	寮 : 9 学生 : 12
9月23～24日	京都地区 (二条)	千本二条、清水五条、洛北、百万遍	寮 : 4 学生 : 11

### ② 面談結果

学業継続困難のため面談実施前の6月に退寮した学生が1名いた。その他の学生においては、学校生活、成績、寮生活、アルバイトなど特に問題は無かったが、就職活動に不安を抱く学生がいた。現状を聞きアドバイスするとともに、継続的に連絡を取りフォローした。

## 2. 講座等の実施

### (1) 東京寮

#### ① 文章講座

次のとおり計4回実施した。

(第1回) 印象に残った体験を一つに絞った自己PR文の書き方

(第2回) 2年生以上は、「私の主張と3つの理由」をテーマにした小論文作成

新入塾生は、資料を基にした小論文作成

(第3回) 「忘れられない話」「感動したこと」をテーマにした文章作成

(第4回) 「私の一押し」をテーマに愛読書などを紹介する文章の作成

②読書感想文講座

所沢寮生も対象とし、4回実施。次の本を題材とした。

(第1回)「赤目四十八瀧心中未遂」(車谷長吉著)

(第2回)「センセイの鞆」(川上弘美著)

(第3回)「蹴りたい背中」(綿矢りさ著)

(第4回)「日の名残り」(カズオ・イシグロ著)

③スピーチ講座

次のとおり計4回実施した。

(第1回) 人前であなたらしく話す、話し方レッスン

(第2回) 自分に似合う色・魅せる色

(第3回) プロダンサーに学ぶ自己表現力

(第4回) 就活や仕事で役立つ究極の自己紹介法

④パソコン講座

東京・新宿に本社を置くIT企業の厚意によりパソコン講座を開講した。実施状況は以下のとおり。

i) 定期講座 (前期) 5月～8月

	第1回	第2回	第3回	第4回
開催日	5月18日(木) 会場：心塾	6月15日(木) 会場：心塾	7月19日(水) 会場：心塾	8月17日(木) 会場：心塾
時間	19:00～21:00	19:00～21:00	19:00～21:00	19:00～21:00
講座内容	①Excel初級 ②Excel応用 ③PowerPoint	①Excel初級 ②Excel応用 ③PowerPoint	①Excel初級 ②Excel応用 ③PowerPoint	①Excel初級 ②Excel応用 ③PowerPoint

定期講座 (後期) 9月～12月

	第1回	第2回	第3回	第4回
開催日	9月21日(木) 会場：心塾	10月19日(木) 会場：心塾	11月16日(木) 会場：心塾	12月21日(木) 会場：心塾
時間	19:00～21:00	19:00～21:00	19:00～21:00	19:00～21:00
講座内容	①Excel初級 ②Excel応用 ③PowerPoint	①Excel初級 ②Excel応用 ③PowerPoint	①Excel初級 ②Excel応用 ③PowerPoint	①Excel初級 ②Excel応用 ③PowerPoint

ii)短期集中講座 8月実施(2日間)

	第1回短期集中講座	第2回短期集中講座
開催日	8月2日(水)	8月9日(水)
会場	新宿本社・会議室	新宿本社・会議室
講座内容	イラストレーター	イラストレーター

短期集中講座 2月実施(1日間)

	第1回短期集中講座	第2回短期集中講座
開催日	1月25日(木)	2月2日(金)
会場	新宿本社・会議室	新宿本社・会議室
講座内容	フォトショップ	フォトショップ

(2)関西寮

①読書感想文講座

4回実施。次の本を題材とした。

(第1回)「銀河鉄道の夜」(宮沢賢治著)

(第2回)「君は永遠にそいつらより若い」(津村記久子著)

(第3回)「蹴りたい背中」(綿矢りさ著)

(第4回)「流れる星は生きている」(藤原てい著)

②教養講座

10月に劇団四季の「CATS」を鑑賞した。

3. 卒塾生との交流促進

(1)東京寮

首都圏在住の卒塾生と在塾生が、皐月祭(5月)、キャンプ(8月)、卒塾式(2月)を通じて交流を深めた。

(2)関西寮

入塾式等の行事終了後、在塾生懇親会を開催。懇親会には卒塾生も参加し、互いに交流を深めた。

\* 4. 東京寮改修工事の実施等

以下の改修工事を実施した。

① D棟研修室インターネット改修工事

② A棟の調理室流し台用およびトイレ手洗い用排水トラップ改修



## 工事

- ③ A・B・C棟インターネット器具改修工事
- ④ 職員宿舎改修工事
- ⑤ D棟照明のLEDへの切替え工事
- ⑥ 受変電設備改修工事
- ⑦ 厨房排気ファン改修工事
- ⑧ 厨房内水道管修繕工事
- ⑨ C棟壁面修繕工事
- ⑩ 女子洗濯室排水管修繕工事
- ⑪ A棟4階トイレ便器水漏れ修繕工事

なお、厨房に食洗機を導入したことにより水道料金の削減が図られた。

(参考) <心塾在塾生数の推移(前期末在塾生数+当該年度入塾生数)>(人)

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29
東京	45	45	57	63	66	59
関西	36	39	34	26	32	43
所沢	2	2	2	2	2	2
計	83	86	93	91	100	104

## V. 事業資金の強化・拡大

### 1. 寄付金収入について

平成29年度の寄付金収入は、多額の遺贈があったことにより、5億24百万円となった。遺贈を除いた寄付金収入は3億38百万円で、当年度の予算3億円を38百万円上回った。これには、多方面への募金活動推進等に加え、AC広告効果が反映しているとみられる。

<寄付金収入推移> (百万円)

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
金 額	356	435	494	512	524
(遺贈)	(121)	(133)	(139)	(113)	(186)

(注) カッコは内数

## 2. 寄付者の拡大について

### (1)個人寄付者の拡大

- ① A C 広告効果により、法人、団体はもとより、個人からの資料請求が増加傾向にあり、個人寄付も増加・拡大傾向にある。
- ②「募金型自動販売機」の設置を引き続き積極的に推進した結果、平成29年度は20台以上の設置が実現した。

### \* (2)法人・団体寄付者の復活および新規開拓

- ①過年度に寄付をいただいたが現在は停止している法人・団体への復活の働きかけを、今年度も引続き自動車や交通に関連するメーカー、販売会社および運輸会社等を中心に行い、その内の数社から復活の回答を得た。
- ②北海道、福井、石川、東京、埼玉、千葉、群馬、愛知、京都、奈良、広島、香川、福岡、宮崎各都道府県内の自動車学校や自動車・交通に関連する法人・団体を訪問し、交通遺児への支援を訴えた。
- ③ C S R ・社会貢献に積極的な企業を中心に、その活動への協賛等を通じ新規開拓を行い、数社から新規に寄付の回答を得た。

### (3)イベントへの参加・協賛

- ①大阪の企業が広島市（6月22日）、高松市（6月23日）、福岡市（7月25日）において開催したセミナーに当会役職員が講師として参加し、当会の A C 広告を放映するとともに、事業概要の説明を行った。
- ②8月25日に福岡市で行われた「飲酒運転ゼロを誓う、市民の集い2017」に参加した。当会役職員が「あしながおじさんロゴマーク」入りブルゾンとキャップを着用し「飲酒運転撲滅」の昇り旗を掲げる等、積極的に協賛している模様が業界紙に掲載された。
- ③8月30日に東京の企業が開催した「寄付金贈呈式」で、当会の A C 広告放映の後、寄付金の受贈と当会「感謝状」の贈呈が行われ、その模様が業界紙に掲載された。

④9月20日に自動車関連の団体が開催した「寄付金贈呈式」で、寄付金の受贈と当会「感謝状」の贈呈が行われ、その模様が業界紙に掲載された。

⑤12月24日、25日に宮崎県内の自動車学校が開催した「寄付金贈呈式」で、寄付金の受贈と当会「感謝状」の贈呈の後、自動運転車のデモンストレーションも行われ、その模様が地元TVに取り上げられた。

⑥平成30年3月28日に、埼玉県内のオートオークション会社が開催した「寄付金贈呈式」で、寄付金の受贈と当会「感謝状」の贈呈が行われ、その模様が業界紙に掲載された。

#### (4) 遺贈等

遺贈に関与している弁護士、司法書士等や金融機関に、不動産を含む遺贈受け入れなど、当会のきめ細かな対応をパンフレットやホームページ等でPRし、当会を受遺者とする遺言書の作成を働きかけてきた。

その結果、遺贈に関する問い合わせが増加傾向にある。

#### ＜個人および法人・団体等からの寄付＞ (千円)

年 度		H25	H26	H27	H28	H29
個人	件数	4,492	4,533	5,001	5,871	6,672
	人数	1,081	1,112	1,355	1,430	1,748
	金額	210,768	292,494	257,877	347,990	382,005
法人/ 団体等	件数	870	2,255	1,164	1,090	1,219
	社数	441	1,763	602	533	578
	金額	146,185	142,201	236,159	164,358	141,821
合計	件数	5,362	6,788	6,165	6,961	7,891
	人/社数	1,522	2,875	1,957	1,963	2,326
	金額	356,953	434,695	494,036	512,348	523,826

## VI. 知名度向上活動

第4次長期事業計画の課題として、当会の知名度向上のため以下の活動を行った。

### \* 1. 広報紙およびホームページの改善

#### (1) 広報紙

広報紙『君とつばさ』を、第329号（平成29年5月20日付）、第330号（同29年8月1日付）、第331号（同29年10月10日付）、第332号（同30年1月1日付）、第333号（同30年3月10日付）の5回発行し、学校関係、奨学生、寄付者などに各回約2万9千部を送付した。そのほか、10月号と3月号については、全国の中学校に別途1万部を送付した。

## (2) ホームページ

月2回および適宜の更新によって常に当会の最新情報を提供した。また、以下の取り組みを行った。

### ① 自然災害被災者への緊急支援のお知らせを掲載

トップページに、平成29年7月の北部九州地方の豪雨による被災者へのお見舞いと緊急支援のお知らせを載せ、被災者救済の対応を行った。

### ② 春・秋の全国交通安全運動に向けての取り組み

春・秋の全国交通安全運動に向けて、交通安全啓発ポスター、チラシをホームページ上に掲載し、交通安全意識の啓発に取り組んだ。また、当会の自動車業界紙への同運動への協賛記事広告をホームページ上で紹介した。

### ③ ホームページへのアクセス数増加のための取り組み

当会ホームページが閲覧される機会を増やすため、i)ヘッダー画像の文字部分をテキストに変更する、ii)トップページでのキーワードの使用を増やす、などの対策を講じたことにより、ホームページへのアクセス数を増加させることができた。

この取り組みは、平成30年度以降も継続的に行っていく。

## 2. 知名度向上の取り組み

### \* (1) A C 支援広告

#### ① 広報活動の状況と視聴者の反応

平成29年7月から、A C 支援広告第3弾を、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌の主要4メディアのほか、生活情報紙、電車中吊り広告、

駅貼りポスターで行っている。これを受けて、視聴者からの寄付申込みや問い合わせなどが多数寄せられている。

また、当会は、平成30年7月から始まる同支援広告次期キャンペーンの対象団体に引き続き選定され、平成30年4月現在、広告制作を進めている。

## ②当会の知名度向上への効果

A C 支援広告の当会の知名度向上への効果を検証するべく、平成29年5月（A C 広告開始約2年後）に3回目となる1年ごとのアンケートを実施した。この結果を過去の同アンケート結果と比較したところ、当会の知名度はA C 支援広告の継続に伴って上昇していることが確認された。

## (2) 記事掲載促進

春・秋の全国交通安全運動期間に、自動車業界紙に当会の事業活動が紹介された。また、諸企業・団体からの当会への寄付を伝える記事が、随時掲載されている。

## (3) 各種企業・団体のイベントを通じた広報

企業が開催した各種セミナーに当会の役職員が講師として参加し、当会の事業紹介を行った。また、地方公共団体主催の「飲酒運転ゼロを誓う、市民の集い2017」に参加し、当会の活動をPRした（下記(4)－③「『飲酒運転撲滅大会』への参加」参照）。

## (4) 交通安全への取り組み

### ①全国交通安全運動への参画

春・秋の全国交通安全運動に協賛団体として参画し、ホームページなどで交通安全への啓発を行った。

### ②出張講演の実施

平成29年5月に舞鶴市役所と旭川の私立高校から、7月に千葉県の公立高校から、それぞれ講演依頼を受け、当会の奨学生・OBやその母親が、自らの体験を通して交通事故の悲惨さ、交通安全意識の大切さを訴えた。

③「飲酒運転撲滅大会」への参加

福岡市、福岡市交通安全推進協議会などが主催する「飲酒運転ゼロを誓う、市民の集い2017」が平成29年8月に当地で開かれ、当会から専務理事ら3名が参加し飲酒運転撲滅を訴えた。

④警察庁主催のシンポジウムへの参加

平成30年1月に警察庁交通局が主催した「交通事故で家族を亡くした子供の支援に関するシンポジウム」に、パネリストとして当会の元奨学生が参加し自己の体験からの思いを披歴した。

⑤警察庁等の「交通安全ファミリー作文コンクール」募集への協力

警察庁等による「平成29年度交通安全ファミリー作文コンクール」の募集について、心塾生をはじめ当会奨学生への広報を行った。

(5)交通遺児家庭についての理解を深める活動の推進

平成29年1月に発刊した、交通遺児とその母親の思いを綴った小冊子「父の思い出を乗り越えて」を、交通遺児家庭への社会の理解を深めるべく、自動車教習所を中心とした交通関係機関・団体やメディア各社等に幅広く継続配布しており、大きな反響を呼んでいる。

(6)警察庁との連携による周知活動の実施

警察庁交通局交通企画課と連携し、全国の警察署を通じて当会の事業紹介パンフレットを交通事故被害者に配布し、当会の奨学制度をより多くの人に利用してもらうべくその周知推進を図った。この企画は今後も継続実施していく。

別表1

## 奨学生現況表〔高校・大学・大学院・専修・各種 学年別〕

(平成30年3月31日現在)

区分・学年 都道府県	高校・高専						大学・短大						院・修士			院・博士				専修					各種							
	1	2	3	4	5	計	1	2	3	4	5	6	計	1	2	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計	
北海道	5	3	9			17	5	6	7	6		24	1	1						0	4	3	1		8					0		
東 北	青森	1	3	2		6	2	1		1		4			0					0	1				1					0		
	岩手		1	3		4				1	1	2			0					0		1			1					0		
	宮城	2	6			8	1	9	1	4		15			0					0		1			1					0		
	秋田	2	1			3		1		3		4			0					0			1		1					0		
	山形	1	1	1		3	1	1	1			3			0					0					0	1				1		
関 東	福島	1		1		2	1	1	1	1		4			0					0					0					0		
	茨城	7		2		9	1	2	1			4	1	1						0	2	1			3					0		
	栃木	2				2	3		1	2		6			0					0					0					0		
	群馬	2	2	2		6	3	1	1	1		6			0					0	1		1		2					0		
	埼玉	2	1	1		4	7	3	5	6		21			0					0		1	1		2					0		
	千葉	6	1	2		9	5	1	2	6	1	15	1	1						0	1	3	1		5					0		
	東京	3	6	8		17	41	30	37	30	1	139	1	2	3					0	19	9	5	2	35			1	1	2		
神奈川	2	4			6	11	5	5	11	1	33			0					0	1	1	1		3					0			
中 部	新潟	4	4	4		12	4	3	2	2		11	1	1						0	1	2			3					0		
	富山					0	1		1			2		1	1					0					0					0		
	石川					0	2					2		1	1					0	1	1			2					0		
	福井					0	1					1			0					0					0					0		
	山梨			5		5		1	1			2			0					0					0					0		
	長野	3	1	1		5	1	2	4	1		8			0					0		1			1					0		
	岐阜	2	2	4		8	3	6	1	2		12			0					0		1			1					0		
	静岡	1	2	4		7	1		4	1		6			0					0	1				1					0		
	愛知	6	7	6		19	9	6	16	8		39			0					0	6	6	3	1	16					0		
	三重	1	2	1		4	1					1			0					0					0					0		
近 畿	滋賀	1	1	1		3	2	1	2			5			0					0					0					0		
	京都	1	4	2		7	11	7	11	6		35			0					0	2	2			4					0		
	大阪	5	9	15		29	13	14	8	16	1	52			0					0	8	7	5		20					0		
	兵庫	4	4	7	1	16	10	11	3	3	1	29			0					0	4	4			8					0		
	奈良	1	4			5	2	4				6	1	1						0			1		1					0		
和歌山	2	4	1		7						0			0					0	1	1			2					0			
中 国	鳥取		1			1						0			0					0					0					0		
	島根					0	2	1	1			4			0					0					0	1				1		
	岡山	3	1	1		5	5		1	3	1	10	1	1	2					0	1	1		1	3					0		
	広島	2	2	1		5	1	3	4	6		14			0					0	1	1	1		3					0		
四 国	山口	1	1	4		6	2	1	1	1		4			0					0					0					0		
	徳島	2	1	1	1	5	2	1	2	1	1	7	1	1	2					0	1				1					0		
	香川	1	4	3		8	1			3		4			0					0		1	1		2	1				1		
	愛媛	2	1	2	1	6	2	1		4		7			0					0	1	4	1		6					0		
高知	2	1			3	1	1	1			2			0					0	2				2					0			
九 州	福岡	9	7	5		21	8	7	6	2		23			0				1	1	3	3	1		7					0		
	佐賀	2	1			3	2	1	1	1		5			0					0					0					0		
	長崎	1	1			2	3	1	1			5			0					0			1		1					0		
	熊本	2	4	1		7	1	3	2			6	1	1						0					0					0		
	大分	1	2	1	1	5		1	1			2			0					0		1	1		2					0		
	宮崎	1	3	4		8				1	1	2			0					0	1	1	1		3					0		
	鹿児島	3	4	1		8	2					2			0					0	1	1	1		3					0		
沖縄	2		3		5	1	1				2			0					0	3	2	2		7	1				1			
合計	95	102	120	1	3	321	168	142	134	137	6	3	590	5	10	15	0	0	0	0	1	1	63	63	31	4	161	3	1	1	1	6
(内休学停止者)	0	1	0	0	0	1	1	5	2	2	0	1	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0
備考(内数)	高校・定時制: 7人 高校・通信制: 20人 高専・専攻科: 10人						短大: 22人												高等課程: 5人													
総合計: 1,094人																																

○奨学貸与金増減残高状況

平成29年度の奨学貸与金の増減残高状況は、次の通りである。  
(貸倒引当金 369,080,000円控除前の金額)

(単位:円)

		高等学校奨学金	大学奨学金	大学院奨学金	専修学校奨学金
奨学貸与金期首残高		4,954,172,676	5,946,443,074	417,919,995	1,420,769,307
貸与	当期貸与高	128,720,000	370,750,000	16,020,000	103,730,000
	前期繰越貸与高	26,564,138,500	17,712,967,059	876,940,000	3,203,690,000
	次期繰越貸与高	26,692,858,500	18,083,717,059	892,960,000	3,307,420,000
返還	当期返還高	313,751,088	452,984,442	27,048,240	93,178,451
	前期繰越返還高	21,320,367,586	11,650,675,535	453,238,005	1,757,805,693
	次期繰越返還高	21,634,118,674	12,103,659,977	480,286,245	1,850,984,144
免除	当期免除高	25,113,655	6,281,230	1,800,000	1,084,000
	前期繰越免除高	289,598,238	115,848,450	5,782,000	25,115,000
	次期繰越免除高	314,711,893	122,129,680	7,582,000	26,199,000
奨学貸与金残高		4,744,027,933	5,857,927,402	405,091,755	1,430,236,856

		各種学校奨学金	奨学金合計	高等学校入学一時金 進学準備金	大学入学一時金
奨学貸与金期首残高		60,252,190	12,799,557,242	1,652,612,891	783,389,253
貸与	当期貸与高	4,080,000	623,300,000	69,800,000	40,800,000
	前期繰越貸与高	157,930,000	48,515,665,559	2,826,250,000	1,684,950,000
	次期繰越貸与高	162,010,000	49,138,965,559	2,896,050,000	1,725,750,000
返還	当期返還高	3,037,230	889,999,451	74,199,772	46,483,631
	前期繰越返還高	96,517,810	35,278,604,629	1,142,849,846	885,114,236
	次期繰越返還高	99,555,040	36,168,604,080	1,217,049,618	931,597,867
免除	当期免除高	0	34,278,885	5,254,310	1,252,770
	前期繰越免除高	1,160,000	437,503,688	30,787,263	16,446,511
	次期繰越免除高	1,160,000	471,782,573	36,041,573	17,699,281
奨学貸与金残高		61,294,960	12,498,578,906	1,642,958,809	776,452,852

		専修学校入学一時金	各種学校入学一時金	入学一時金等合計	合計
奨学貸与金期首残高		277,099,233	8,484,490	2,721,585,867	15,521,143,109
貸与	当期貸与高	23,200,000	0	133,800,000	757,100,000
	前期繰越貸与高	387,800,000	12,000,000	4,911,000,000	53,426,665,559
	次期繰越貸与高	411,000,000	12,000,000	5,044,800,000	54,183,765,559
返還	当期返還高	15,290,556	361,920	136,335,879	1,026,335,330
	前期繰越返還高	105,066,907	3,128,710	2,136,159,699	37,414,764,328
	次期繰越返還高	120,357,463	3,490,630	2,272,495,578	38,441,099,658
免除	当期免除高	296,600	0	6,803,680	41,082,565
	前期繰越免除高	5,633,860	386,800	53,254,434	490,758,122
	次期繰越免除高	5,930,460	386,800	60,058,114	531,840,687
奨学貸与金残高		284,712,077	8,122,570	2,712,246,308	15,210,825,214